

平成 29 年度 京都市立銅駝美術工芸高等学校 学校経営方針

平成 29 年 4 月 3 日

校長 吉田 功

<今年度の学校経営方針>

京都市立高等学校において特色ある学校改革が進み、昨年度の京都工学院高校の設立をはじめとして、今後数年の間に新しい学校の設立が計画されている。今年 3 月に「京都市立芸術大学移転整備計画」が決定され、平成 35 年(2023)に市立芸術大学が京都駅東部崇仁地域へ全面移転すると同時に、本校が同じ地区へ移転することが発表された。

すでに本校は、平成 27 年度末に「将来構想のまとめ」を策定し、中学生が減少し社会情勢が激しく変化する中で、長期的なビジョンを立てながら中期・短期に取り組むべき具体的な改革を検討をすすめてきた。本校は、歴史と伝統ある美術専門高校として取り組んできた豊かな教育実践をもとに、6 年後の移転を念頭において現校地での教育活動のさらなる充実に取り組み、学校力を向上させ、魅力ある“Only One”の美術専門高校として発展していかなければならない。具体的には、専門教育の充実はもとより、今後新しい学習指導要領の実施、また、高等学校基礎学力テストや大学入学希望者学力評価テストの導入が予定されていることを踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実践、ICT 機器の効果的活用、主権者教育の推進、グローバル化への対応を重視して、教育実践を積み上げていくことが肝要となる。

平成 28 年度を本校の学校力向上、ブランディングの再構築を始める「改革元年」と位置付けてスタートした取り組みを今年度さらに前進させる。そして、本校に志願、入学してきた生徒一人一人の希望と願いをしっかりと受けとめ、生徒のモチベーションを高め、力を引き出し、大きく成長させて進路実現に導く教育活動を進めるため、以下の方針と重点課題を示す。

<学校経営方針の柱>

信頼と共感の醸成 対話と協働による実践

<学校経営の基本方針>

- (1) すべての教職員の個人の力を、組織的な学校力として機能させ、“チーム学校”で取り組む。
- (2) すべての教職員が学校運営に参画する意識を高め、課題を共有した校務の協働をはかる。
- (3) 学校のあらゆる教育活動をねらいと目標を明確にして実践し、評価をふまえた改善をする。
- (4) 美術工芸科と普通科との連携、学年と教科・分掌との連携を強化・深化させる。
- (5) 6 年後の移転を踏まえた短期・中期・長期のビジョンのもと、学校力向上のための実践を進める。

<指導を進める上での重点>

- (1) 生徒の学びのモチベーションを高め、ねらいと目標を明確にした「わかる授業」「主体的、対話的で深い学び」を実践し、学力と実技力を向上させる。校内 WiFi 環境、ICT 機器を効果的に活用した教育活動を進める。
- (2) 美術工芸の専門高校としての専門力の向上とともに、社会とつながる多様で多角的な視点をもった普遍的な学力の向上をはかる。
- (3) 日常的に生徒をよく観察し生徒のニーズを的確に掌握する。気になる生徒、困りを抱えた生徒、課題のある生徒の情報を共有し、時機を逸することのない組織的な対応を行う。
- (4) 生徒の自主性・自律性を高めるとともに、生徒自身が自己の心身をコントロールする力、他者とコミュニケーションをとり、協働する力、社会力を育成する。
- (5) 集団の中で自他を尊重する意識、ルール、モラルを疎かにしない態度を育てる。いじめ、暴力など人権を傷つける行為を絶対に許さない指導を進め、人権文化を高める。